

2016/3/29

第 14 期 小平市緑化推進委員会

緑化推進計画提言

第 14 期小平市緑化推進委員会

2016/3/29

小平エメラルドネックレス計画

上水・用水・雑木林を活用した小平市を全国・グローバルへ

第14期小平市緑化推進委員会

計画理念

小平エメラルドネックレスの計画理念

美しい水、色濃い緑はエメラルドにたとえられることが多い、例えばエメラルドビーチ（沖縄）、エメラルドシティー（米国シアトル）など日本や世界で呼ばれています。それは日本語で緑柱石といわれる宝石エメラルドの透き通るような美しい濃い緑色への憧れがもたらした言葉です。

小平市の緑の状況に置き換えれば、玉川上水・小金井公園・狭山境緑道・野火止用水の水や緑で構成され、市周囲を取り囲む小平グリーンロードをネックレスの輪の部分とすれば、連結する小平中央公園や平櫛田中彫刻美術館や薬用植物園や大事に保存された雑木林等の大きな輝く緑が配置されることでエメラルドネックレスとするという発想こそがまさに本計画理念です。

自然が色濃く残る町

小平市は、ほぼ多摩地区の東北部に位置する市で、JR・西武の鉄道5路線、7駅を有し、この他ほぼ市境に4駅が存在し、東京都心、埼玉県中心部に容易にアクセスできることから宅地開発された通勤者の町という一面を持っています。一方青梅街道を中心に江戸時代初期～中期にかけて拓かれた新田開発の形状、例えば旧街道・街道並木生垣・屋敷森・短冊状の畑・上水用水・雑木林等が、いまだ残る市域は、自然の素晴らしさを矜持できる町として期待されています。

小平の自然は祖先からの贈物

小平の位置する武蔵野台地は江戸時代が始まる前までは、いわゆる「武蔵野の萱^{かや}の原」と呼ばれ、水利に乏しく飲み水にも事欠く、不毛の地でした。江戸の水道、玉川上水の通水、そしてそこからの分水によって初めて、人が住むことが可能になりました。そして我々の祖先は多くの苦労を重ねて、今日青梅街道を中心に屋敷森・用水・畑・雑木林など人為的自然を作り上げ、この地に生きて行く術を築き上げたのです。今残る小平の自然の多くは、われわれの祖先が営々と創意工夫さらに努力を重ねた上に作り上げた自然であり文化遺産としての側面をも持っています。

今を生きる我々が後世に継承すべき義務

上水・用水を中心とした町づくりは、今日我々に大きな恩恵をもたらしています。小平のまちづくりの傑作はなんといっても、小平グリーンロードです。市域の外周を取り囲むエメラルドネックレスのような水と緑が町の骨格を形成しています。この点では我々小平市民は恵まれているといっても過言ではありません。しかしこれらはまさに祖先が残してくれた人工的自然財産の賜物です。今を生きる市民はこれを水と緑の観点から体験し、さらに発展・継承すべき義務を負っていることはいうまでもありません。

潜在的な自然資源を活かす町づくり

残された上水・用水・雑木林・屋敷森などが、小平市の潜在的な自然資源です。基本的

にはこれらの自然を残しつつ、これら自然資源と捉えて、利用し、現代に生きる水と緑を作り上げていかねばなりません。

現代に生きるとは、小平市の水と緑のグローバル化であり、生物多様性の向上であり、ソフトも含めた次世代に継承する水と緑であり、市民・都民・内外の観光客をも満足させるグリーンロードのバージョンアップであり、市域全体をネットワークする水と緑を計画理念とします。

計画の考え方

●何故、小平市はエメラルドネックレスなのか？

美しいみどりのつながりは、玉川上水・小金井公園・狭山境緑道・野火止用水の豊かな緑と清浄な水が市域周囲を取巻くように、ちょうどエメラルドのネックレスの輪の部分のように繋がっています。そして繋がられるべく、ひとつひとつのエメラルド原石は、小平市立中央公園・津田塾大学雑木林・平櫛田中彫刻美術館・名勝「小金井（サクラ）」・小金井公園（里桜林・染井吉野林・山桜林・大島桜巨木・雑木林）・小平ふるさと村・あじさい公園・小平霊園・明学前桜並木・十三小森（雑木林）・第三森（雑木林）・春の小川・東京都薬用植物園・中島公園・野火止用水歴史環境保全地域内雑木林・上水新町雑木林・（仮称）小平水車公園等々があります。

これらのエメラルド原石さらに増やし、さらに自然度高く磨き上げ、輝きを放つようにしなければなりません。

●水と緑の有機的連携

上水（玉川上水）・用水（野火止用水・新堀・小川用水等）と雑木林・屋敷森の、有機的連携は、武蔵野台地生活史の尊重・生物多様性の実現・郷土景観の修復等で大きな可能性を広げます。

●小平グリーンロードのバージョンアップ

市域周辺をネックレスのように取り囲む小平グリーンロードの水と緑は、さらに周辺の水・緑施設さらに文化施設「おもてなし施設」と有機的に連動させることで、楽しみはバージョンアップします。

●グローバル小平の水と緑へ

東京オリンピック・外国人観光客の急増を控えて、グローバル化は、社会的な要請です。グローバル化について小平市が検討の時期です。小平→多摩→東京→日本→グローバル視点で考えることが必要です。

●「子ども用水原体験システム」の構築

小平市に住む小学生に、用水路を肌で感じてもらうことが大切であり、もちろん地域との係わり合いの中で「ヌマサライ」などで体験できますが、子どもが自由に、思い立った時に利用できる新たな用水路を設け、用水と親しむ原体験場所とします。

●水・緑と防災機能向上

立川断層・首都直下型等地震が危惧される昨今、東日本大震災被災地では津波対策として、被災の土砂や瓦礫で積み上げ、300kmに渡って防災林をつくる「森の長城」というプロジェクトも進行しています。小平では上水・用水・雑木林ネットワークを防災機能向上につなげます。

●継承する小平の水とみどり

水と緑の計画はいきの長いものです。幼稚園・保育園はもとより小・中学校での水と

緑に関する体験と教育が重要でこのことが水と緑の継承につながります。また、人口の社会増減の多い小平市では新住民に対する社会教育的立場からの水と緑の体験の必要性が問われています。

●地域潜在的資源の活用

上水・用水・雑木林・屋敷森は、小平市の地域資源であり、ある意味隠れた潜在的資源でもあります。これらの資源は大分活用されてきましたが、さらに新しいカテゴリでの活用が望まれます。新田開発の先人が残してくれた、地域独特の資源を現代生活にマッチした形で再生することは、今あるわれわれ市民の義務です。

●市民参加の「おもてなし」

小平グリーンロードで代表される水と緑のネットワークは、単にフィジカルな水や緑だけではなく、水・緑沿道での市民レベルによる「おもてなし」が重要です。レストラン・カフェ・ギャラリー・民間文化施設等々市民レベルでのネットワークを楽しくさせるサービスです。また、小川用水など利用した景観向上の工夫もこの「おもてなし」の一部です。

●縦横無尽のアクセス

水と緑のネットワークは市民がいつでも、どこからでも利用でき、観光客は公共交通機関によってどこからでもアクセスできるような仕組みを作ることが大切です。幸いにも小平グリーンロードは多くの鉄道駅からそれぞれに利用することが可能です。この場合市域を越えた駅利用の発想が必要です。具体的なものの一つに「レンタサイクルシステム」の導入が期待されます。

●国・東京都および周辺自治体・民間施設の協力・活用

小平グリーンロードは、小平市と近隣市との境界部分に多く存在します。国や都、近隣市さらには大学や会社・市民等の民間の水・緑・文化施設についての小平グリーンロードでの利用が可能で、これらの一体利用を推進するための協力体制を確保することが大切です。

実現のための施策

1 小平上水・用水・雑木林名所案内マップの創刊

小平の用水・上水を中心に雑木林等水と緑施設さらに文化施設などを網羅した、ビジュアルでわかり易い案内マップを創刊します。小平グリーンロードや小川用水などを市民さらに観光客が訪ね歩くのに便利なマップとします。特に総合学習に利用しやすい内容で、学校教育はもちろん、子が親に教えて親子で楽しむグリーンロードネットワークとしても利用でき、さらに人口の社会的増減の多い小平市では市内新規転入者が小平をよく知るためのマップとしても利用されます。

2 (仮称) 小平水車公園「堰・回し堀・築樋・水車復活」事業の推進

玉川上水に並存する新堀用水を活用した水車を復活します。すなわち新堀用水から堰・サブタによる取り入れ口、さらに築樋（築堤）による回し堀（導水路）、水車、水車小屋などを（仮称）小平水車公園内に復活し、祖先の人々が貴重な水資源と地形を巧み利用していたことを土木施設の実物で示します。用水路の町小平市は、麦作と糧うどんなどの粉食文化の象徴として往時は約 40 基の水車が存在しましたが、現在は皆無です。近年生産緑地の農地では麦作が復活しているとも聞きます。先達の知恵である、水車に代表される用水利用と粉食文化について、昔のままの姿で将来にわたって、われわれは継承していく必要があります。

すでに、小平ふるさと村には標本的な水車展示がありますが、ここでは、用水を流れる水と地形を巧みに工夫した「堰・回し堀・築樋・海老樋等」の遺構が残っており、本流から水車までトータルな形で再現できるという意味で新たな価値を創造することができます。

別紙 1 (仮称) 小平水車公園構想図参照

3 (仮称) 中島町「雑木林特別体験ゾーン」の創設

ここでいう特別体験ゾーンとは動植物の採取禁止を一定条件で解除し、自然とのふれあいの糸口を動植物採集など興味あることから誘導しようとする特別な場所を指します。

東京都薬用植物園雑木林＋中島町公園雑木林化＋野火止歴史環境保全地域雑木林＋松の木通り＋玉川上水の一帯を武蔵野雑木林特別体験ゾーンとして指定し、往時の雑木林生活を市民の力で復活させるとともに国木田独歩に見出された雑木林の詩趣を体験することのできる地域の林とします。また、カブトムシやクワガタムシなど昆虫採集などを認める「雑木林昆虫採集特別体験ゾーン」および雑木林の多様な自然を維持しながら具体的に体験できる「生き物・自然体験特別体験ゾーン」を規制緩和の中、植物・生物と子ども達を結びつける新たな施策が必要です。

4 用水路を利用した。水生生物採集のできる「用水路特別体験ゾーン」の新設

小学生の上水や用水路での自然体験を実現させるために、公園などに隣接する用水路からバイパス的に新たな用水路を設置し、「用水路特別体験ゾーン」として水生生物を採集することで、間接的に用水を体験し原体験とします。市内各所にバランスよく配置することが大切です。

5 市内・隣接市駅からグリーンロードアクセスの充実

5つの鉄道路線が存在し、公共交通施設の発達した小平市では、上水・用水・雑木林は市内および隣接市の鉄道駅から徒歩でアクセスすることが可能です。各駅から案内施設・情報を強化することが必要です。このためには駅構内からの積極的案内が有効で西武鉄道（拝島・新宿・国分寺・多摩湖各線）・JR東日本（武蔵野線）・多摩モノレールなど鉄道会社の協力が不可欠です。各駅からの「水と緑の駅から魅力マップ」などを鉄道各社のメリット等条件整備し、鉄道各社の協力を得て、駅からの分割利用の促進につなげます。

（市内駅）1 鷹の台駅→玉川上水、2 小川駅→野火止用水、3 花小金井駅→狭山境緑道・小金井公園、4 小平駅→狭山境緑道、5 青梅街道駅→小川用水、6 新小平駅→小川用水、7 一橋学園駅→玉川上水。

（隣接市駅）8 玉川上水駅（立川市）→玉川上水・野火止用水（松の木通り）、9 東大和市駅（東大和市）→野火止用水（松の木通り）、10 萩山駅（東村山市）→狭山境緑道、11 八坂駅（東村山市）→狭山境緑道・野火止用水

別紙3 小平市水・緑・グリーンロード各駅アクセス図参照

6 「レンタサイクル」システムの創設

市外利用者のため、各鉄道駅からの「グリーンロード」の全体利用・部分利用・拠点利用の便宜を図るため、「レンタサイクル」システムを提案します。

レンタサイクルについては、経営的課題が山積しています。そこで提案ですが、小平市の現在の公営自転車置き場の利用は、かなり割合で都心に通勤するサラリーマンが多いことから朝早くから夜遅くまで預けるケースが多数であることが推察されます。即ち昼間はほとんど利用されずに置き場で眠っているのが実情です。一方、観光のための利用は9時から17時ぐらいと限定されていることから、時間差での相互利用の新しいシステム創設の可能性が存在します。例えば小川駅、小平駅、新小平駅、東大和駅、鷹の台駅等公営自転車置き場でのレンタサイクルでの相互利用が可能です。しかし、自転車利用の増大は、事故多発の可能性を秘めており、利用促進施策と相まって安全対策の充実が必要です。

7 「駅毎」水・緑名所の創設

11の各鉄道駅周辺（例えば500m圏内等）には、魅力となる水・緑・文化施設を新たに配置します。既存水・緑施設の魅力紹介、現状施設のバージョンアップはもちろんのこと、新規の水・緑の施設を計画し、駅から魅力マップ作成のコンテンツとしてマップ

作りの動機付けとします。

8 グリーンロード市内・隣接市「魅力水・緑・文化施設」のネットワーク化

グリーンロードと魅力的な水・緑・文化施設のネットワーク化を実現します。

(玉川上水) 東京都小平監視所、清流の復活、こもれびの足湯 (3 市共同)、武蔵野美術大学美術館、ふれあい下水道館、平櫛田中彫刻美術館、(仮称) 小平水車公園、名勝「小金井 (サクラ)」、小金井市文化財センター小金井桜の展示、鷹の台ギャラリー、胎内堀、小川水衛所跡、玉川上水大久保つつじ、玉川上水野草堤、森田ガーデン、小平市立中央公園、津田塾大雑木林、竹内家の大ケヤキ、

(小金井公園) 小金井公園、小金井公園梅林、小金井公園桜花、小金井公園大島桜、江戸東京たてもの園、

(狭山境緑道) 小平ふるさと村、齋藤素巖・彫刻の小径

(野火止用水) 野火止歴史環境保全地域雑木林 (3 箇所)、野火止用水清流の復活の碑、(仮称) 中島町雑木林特別体験ゾーン (薬用植物園雑木林・中島公園・歴史環境保全地域雑木林)、明治学院ライシャワー館、桜並木、東京都薬用植物園、春の小川 (東大和市)

(小川用水) 彫刻の谷緑道、小川緑地ビオトープ、なかまちテラス、小川寺庭園

(名木百選) 各名木と「グリーンロード」、「用水」のネットワーク化

別紙 4 小平市水・緑・文化資源ネットワーク図

9 用水通水 100%化計画

小平市管理の上水・用水は現在約 50 k m で全体の約 70% に通水されています。これを 100% にしなければなりません。現地情報によれば、新小金井街道より東側に通水がされていないのが実情です。

基本的に流れない理由を解明するには 1 まず水量が少ないことが挙げられます。2 小平市が水門等基本となる管理を行える水路例えば小川用水、新堀用水とその流末の大沼田・野中・鈴木・田無の各用水があります。一方他の自治体が水門を管理し、小平市が行えない水路例えば砂川用水があります。さらに川上につながる水路がなく水路跡だけのものがあります。これらを分けて考えることが必要です。

しかし、昔と比べて多摩川の水位は下がっており、水量の絶対量が不足していることは事実ですので、漏水状況さらには蒸散状況を把握して対応策を考えねばなりません。また、別途水源を求める方策を普段に追求する努力はかせませません。

10 上水・用水魅力アップ計画

・ 市内各所ビオトープ計画

特に用水は公園・緑地・雑木林に含まれたり、隣接する場合、また公園用地として用水の流れる土地を積極的に取得し、ビオトープ化を積極的に推進すべきです。そこでは、いきものの生態はもちろんのこと、カキツバタ、ハナショウブ、アサザ、大賀ハス等ハ

ス、スイレン、ミツガシワ、アヤメ、イチハツなどの水生植物等の名所づくりを積極的に行い用水の魅力バージョンアップします。

・ 上水・用水景観賞の創設

近年用水を利用してのハナショウブづくり、用水を活かした庭づくり、護岸を景観的に取り扱うなど民間市民レベルでの多くの修景的試みがなされています。もちろん過度の私的利用は問題ですが、市民の用水を美しくしようという意思は大切にしなければなりません。管理者がルールづくりを行い、心ある市民活動の優れたものに対して「上水・用水景観賞」を与え民間レベルの上水・用水の修景の動機付けを行うことも必要です。

11 屋敷森ゾーンの魅力保護

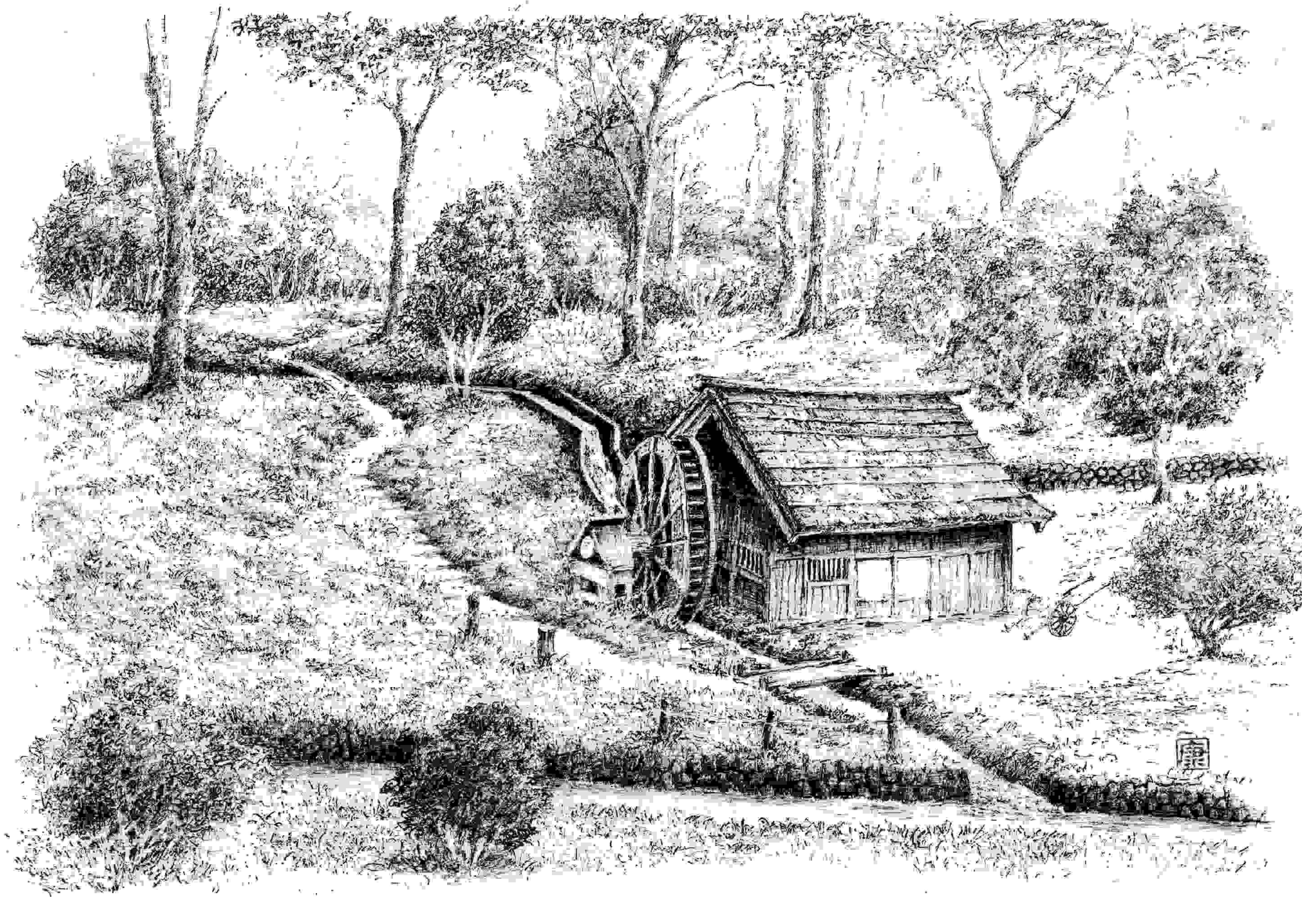
屋敷森・社寺林は用水・上水や農道と一帯となって保護されるべきです。青梅街道や鈴木街道沿いの屋敷森は少なくなりましたが、裏側の屋敷森は健在なところも多く、さらに屋敷森を繋ぐ農道は「たからみち」と呼ばれ、往時のたたずまいを感じさせるノスタルジックな空間が今でも存在します。例えば屋敷森・社寺林・用水・農道（たからみち等）を連結させ、現状のまま保存して「屋敷森裏緑道」等として現存するうちに整備することが肝要です。

12 市民による「おもてなし」計画の推進

「おもてなし」として、まず重要なのは市民が緑を大切にしている心を何らかの方法で表す必要があります。例えば東京都で実施している「マイツリー制度」で「私の木」としてネームプレートをつけて小平市民は緑を大切にしているということを印象付ける新制度を設けることが大切です。

上水・用水・雑木林を散策する市民・観光客は休憩・食事場所を求めています。現状でもマーケット的に成立し、多くの顧客を集めて営業している農園・ガーデン・レストラン・カフェ・ギャラリー・温浴施設などあります。マーケットの拡大に合わせて営業的に成立つ質の良い癒し空間を市民レベルで提供できる、良好民間施設には推進のための行政的方策も検討すべきです。玉川上水で一例を挙げれば玉川上水— いろいろの里、マ・メゾン、各オープンガーデン、めん処松根、民間野外ギャラリー他、多数あります。

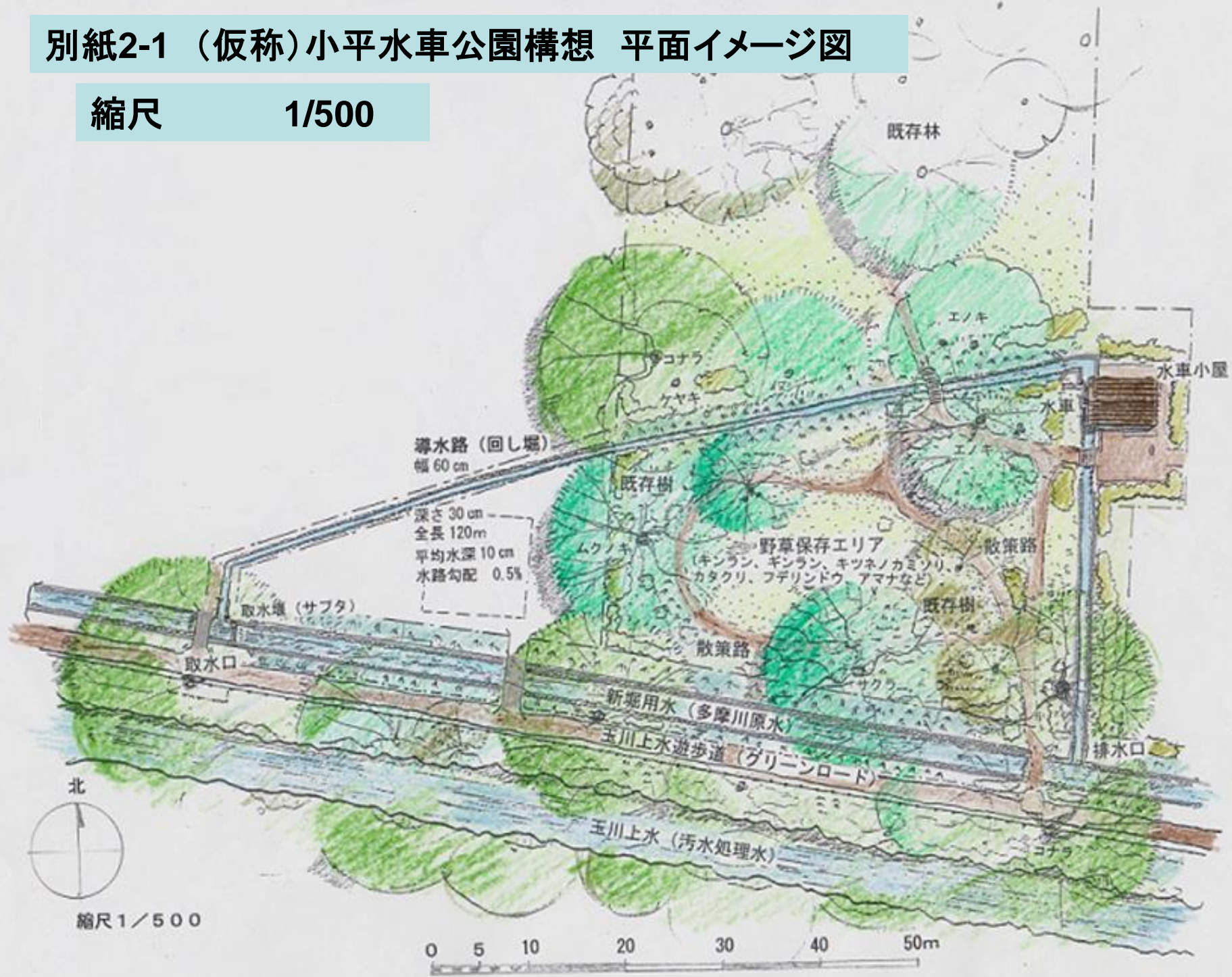
以上



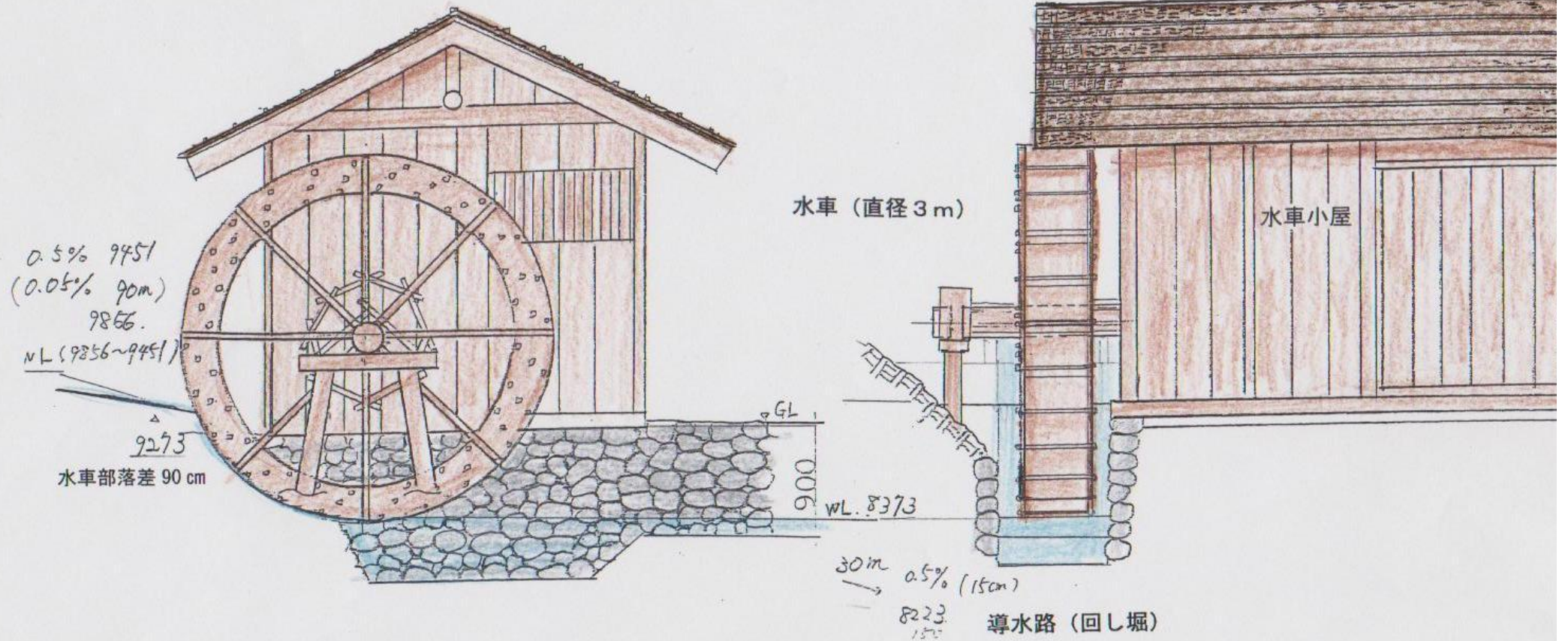
別紙1 (仮称)小平水車公園構想図

別紙2-1 (仮称)小平水車公園構想 平面イメージ図

縮尺 1/500



水車イメージ図

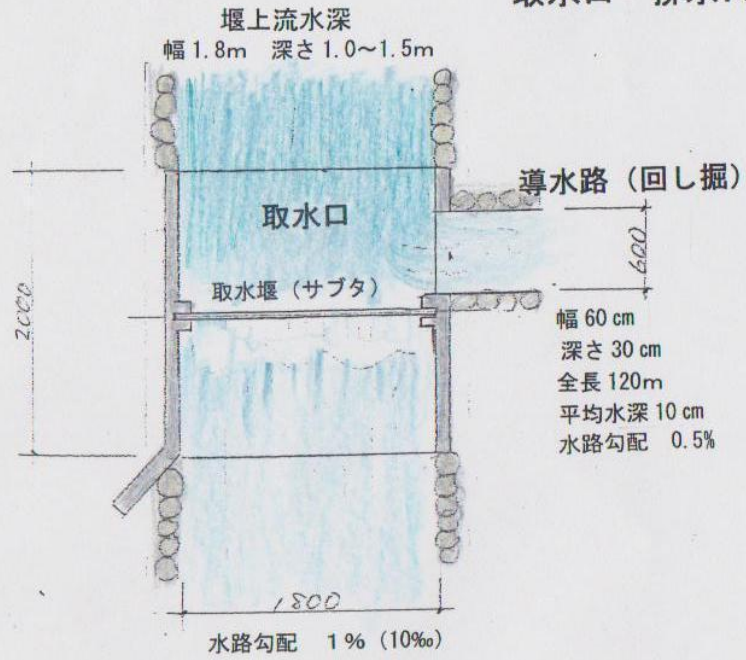


西側立面イメージ図

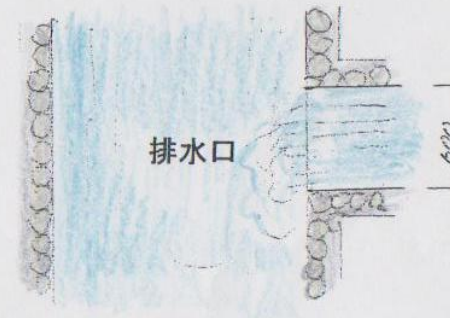
南側立面イメージ図

別紙2-3 (仮称)小平水車公園構想

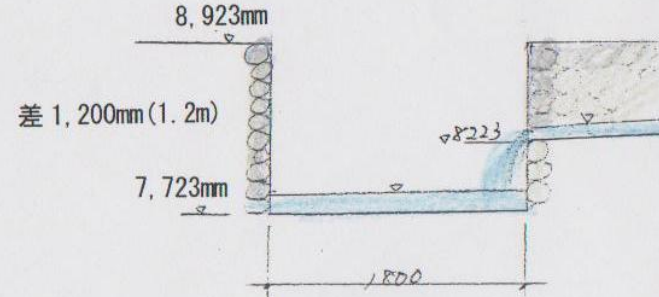
取水口・排水口・導水路 (回し掘) 詳細イメージ図



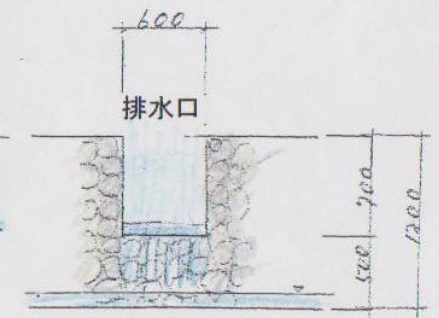
平面図



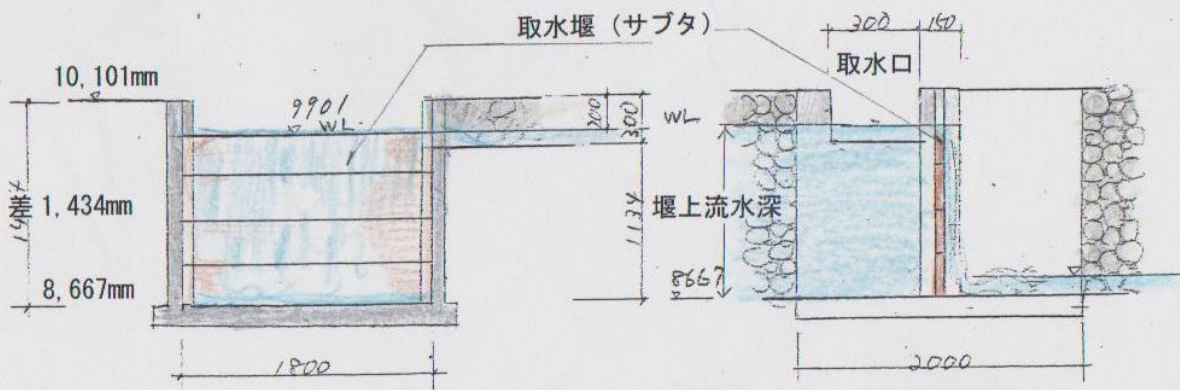
平面図



断面図



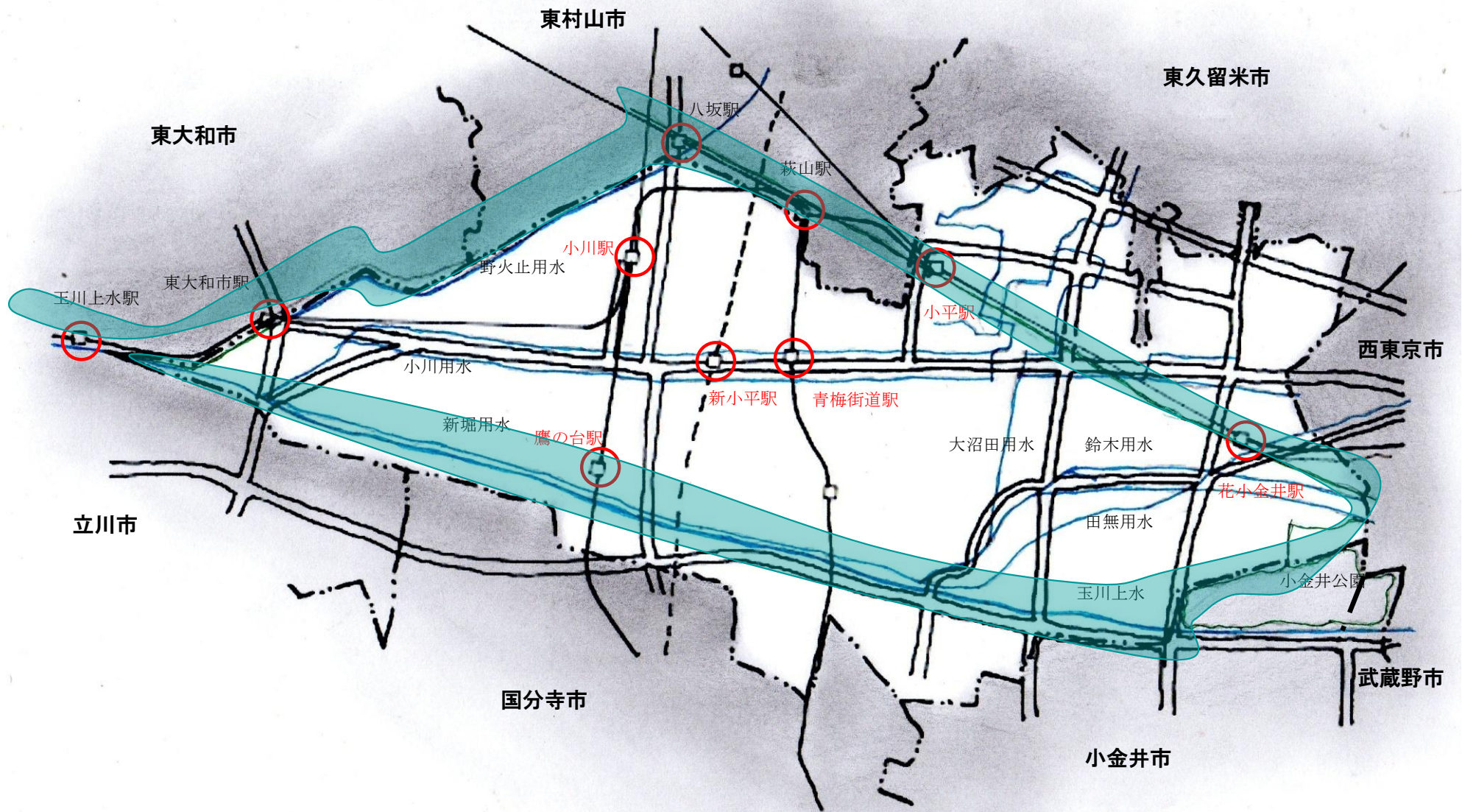
側面図



断面図

側面図

縮尺 1/50



別紙3 小平市水・緑・グリーンロード各駅アクセス
図



別紙4 小平市 水・緑・花・文化資源ネットワーク図

第 1 4 期 小 平 市 緑 化 推 進 委 員

委 員 長	椎 名 豊 勝	(一般社団法人日本樹木医会会長)
副委員長	山 田 眞 久	(NPO 法人東京どんぐり自然学校理事長)
委 員	早 田 満	(小平市玉川上水を守る会)
委 員	松 根 滋 廣	(小平市緑と花いっぱい運動の会)
委 員	佐 野 郁 夫	(小平市野鳥と緑の会)
委 員	宮 崎 進	(一般社団法人小平青年会議所)
委 員	田 中 稔	(こだいら水と緑の会)
委 員	丹 治 由紀子	(市民公募)
委 員	菊 地 ゆ み	(市民公募)
委 員	千 葉 康 之	(市民公募)
委 員	川 島 千 カ	(市民公募)
委 員	宮 村 朋 子	(市民公募)
委 員	根 津 孝	(市民公募)

第 14 期小平市緑化推進委員会提言書
平成 28 年(2016 年)3 月 作成

編集・発行 第 14 期小平市緑化推進委員会

事務局 〒187-8701

東京都小平市小川町二丁目 1,333 番地

小平市水と緑と公園課

電話 042-346-9830